

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4372500704		
法人名	社会福祉法人 不動産		
事業所名	グループホーム おとぎの国		
所在地	熊本県山鹿市鹿本町津袋585		
自己評価作成日	平成23年8月12日	評価結果市町村報告日	平成23年10月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do">http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	NPO法人 九州評価機構
所在地	熊本市上通町3-15 ステラ上通ビル4F
訪問調査日	平成23年8月30日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

グループホームでのサービス(生活支援)は、おとぎの国の理念に沿って、一人ひとりのペースに合わせたリズムで、時間を掛けて提供している。機能的に優れ、明るく開放感のある建物の造りと利用者皆様の表情に、安心と安堵感を強く感じられる家族が多く、スタッフに限らず利用者の家族も、高齢(認知症の高齢者)になったら私もここにお世話したいと話をされている。又、地元の子供会や運動会等での交流の他、法人主催の夏祭りやバラ祭り・GH運営推進会議のメンバーを通じて、知人や地域の皆さんとのつながりが格段に広がってきている。今年は、地域と地元の消防団との合同防災訓練も計画している。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

地域の高齢者福祉の拠点である法人の広大な敷地の一角にホームは存在する。周囲は整備された庭園があり、欧風に統一された建物は優雅さと安らぎを与え、内部も同様に落ち着いた装飾がされている。入居者一人一人の性格や個性を把握し、潜在能力の維持に努め、傾聴、寄り添う姿勢を持ったケアを目指している。外部評価を毎年受審されており、職員の業務の振り返りとして真摯に取り組んでおられる姿勢は評価できる。法人とともに取り組んでいるバラ祭りや夏祭りなどの行事は地域との繋がりを側面から支援できる体制が築かれている。家族との信頼関係も構築されており、法人との緊急時連携体制も整備されており、状況により住み替えもできる。今後も高齢者福祉・認知症の啓発推進が期待される。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフ自身が理念(おとぎの国が目指す姿)への愛着と誇りを持っており、利用者一人ひとりの状況に合わせ、理念とプランに沿ったサービスを提供している。	ホーム独自の理念のほかに法人の職員憲章や基本方針を会議や朝礼の際に確認し、業務に取り組んでいる。職員同士で理念の振り返りを行う場合もある。家族や訪問者へ説明し、運営推進会議の資料に毎回掲載し、啓発している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の子供会や運動会での交流の他、外出先では馴染みの方や子供達が声を掛け協力してくれる。又、法人主催の夏祭りやバラ祭り等を通じての知人や地域の皆さんとの交流は、一昨年から今年にかけ格段の拡がりを見せている。	法人の定例化した行事の開催もあり、ホームへの地域の認知度も高くなり、日頃の散歩や買い物での地域住民との挨拶や会話、交流も自然と行われている。地区の運動会に入居者の競技に参加することができた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の皆さんの認知症等に対する相談にも応じており、ホームの施設だよりを地域(地元も3地区)にも開放し、回覧も行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地元の運動会や祭りへの参加は、この会議での話し合いから生まれており、事業計画や外部評価内容等も報告し意見を求めている。今年は、地域と地元消防団との合同防災訓練(合同消火避難訓練)等も計画し話し合ってきた。	会議は2ヶ月に1回開催されており、地域行事の情報や高齢者に関する情報が入手できており、ホームの運営に反映されている。メンバーも地域の区長や民生委員、老人会長、認知症サポーターや家族、入居者代表と多様である。討議内容はホームの活動状況の紹介や意見交換や認知症に関する質問など、活発に行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎年、市主催の行事や講座に参加しており、市の担当者や市社協のケアマネージャーの訪問情報交換等も続けている。	運営推進会議への地域包括センターからの出席があり、高齢者福祉に関する情報や相談など、日頃より協力関係を構築するようにしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員が十分に理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	研修や学習会の参加により全職員は身体拘束の弊害を理解しており、拘束のないケアに努めている。車椅子利用者の方には、その都度意向を聞いており、言葉での拘束も行わないようにしている。	

グループホーム おとぎの国

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前入居されていた利用者がこの制度を活用されており、研修会でも学んできている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分に説明し理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームの玄関先や法人施設にも投書箱を設置し、寄せられた意見や要望等は真摯に受け止め、改善等に取り組む体制を整えている。	ホームに対する意見や要望を受け入れる体制は整備されており、訪問時や電話での連絡時に表しやすい雰囲気作りに努めている。出された意見・要望は早急に話し合い、解決に向けて取り組んでいる。年4回写真満載のホット便を作成し、担当者から入居者のホームでの様子や健康状態などを添えて送付し、喜ばれている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	グループホームでの会議や打ち合わせには、自由に意見を出し合える雰囲気と時間がある。GHの理念は、当時のスタッフ全員の意見から生まれており、行事や環境・ケアプラン等の改善に活用し反映しているケースが多い。	定期的な会議、毎日の申し送り時など業務中でも職員の意見やアイデアを聞く機会が多い。会議では全職員の意見や話を聞いている。その中で、取り組めるものはすぐに取り掛かり、職員の得意分野(環境整備や広報誌作りなど)で能力を発揮してもらっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きがいのある職場であり、職員の資格取得支援体制も充実している。更に、年2回の自己評価や外部評価等に取り組むことで、自己分析と共に、職場環境や意識を改革し、向上させていくことが出来る。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎年、施設内研修会(事例研修発表会)を行っており、県や市主催の研修会やグループホームのブロック研修会等にも積極的に参加し、能力アップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣地区のグループホーム等と定期的に交流し勉強会を行ってきている。又、時には、講師を招き、問題点や取り組みの方法等を学びながら、サービス向上に向け取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期段階では、特に注意し、時間をかけて、対話や状態観察を行ってきている。又、本人が不安になられないようにと雰囲気や環境に配慮し環境づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	当初に限らず、その後の面会時にも家族等と相談する機会を設け、要望等を聞き、安心されるような関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居日やその前後に、本人や家族・担当ケアマネージャー等より情報を得、相談しながら、必要なサービス等を取り入れるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	取り入れるサービスが自立支援であることを念頭に置きながら、以前(若かりし頃)からの生活や本人が得意とされていたことを聞き、教わったりしながら、関係を築いていくようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的に(年4回)写真入りの便りを発送し、面会時にも近況報告等を行い対話に努めている。又、知人宅訪問やお墓参り・病院受診などは家族支援でお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	古里訪問も外出行事に取り入れている。以前の地域の知人や老人会の方、ケアマネージャー等の訪問があり、これらの方には再度の訪問をお願いし、家族にも伝えている。	知人や友人の訪問を歓迎し、いつでも来ていただけるようお願いしている。故郷や自宅へも出かけるような機会を作り、馴染みの場所や人との関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	多少は相性や好みの差がでるが、生活を共にし、行動を共にすることにより、助け合いや共有の関係が出来ており、支援にも努めている。		

グループホーム おとぎの国

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	当方からは、前入居者の方を訪ねており、必要に応じては当時の経過等を説明している。又、退所された方や家族が来荘される時もある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの奥にある思いや希望する暮らし方などの把握に努め、本人の意向(困難な場合には家族としての思い等)を第一に考え支援している。	日常の会話や関わりの中で意向や思い、生活歴などを把握し、職員間で共有し、入居者が望む生活が送れるように努めている。把握が困難な方は家族に聞き、全員で検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、知人、前担当ケアマネージャー等からの情報を得て把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人との対話やスタッフ間での確認・観察記録等での情報により、潜在能力等の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の要望をくみ取りながらも、利用者の残存機能をどう活用していくか、どう向き合い何を大切に取り組んでいくか等を話し合い、現状に即した介護計画を作成している。	家族や入居者の意向をもとに職員の意見を取り入れながら、計画作成担当者が介護計画を作成し、ミーティングで確認している。毎月モニタリングを行い定期的に介護計画の見直しをし、現状に即した計画を作成するようにしている。	チームケアのためには職員レベルの均質化が重要と思われます。記録の整備や工夫に関しての取り組みの継続が期待されます。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	受診や目立った変化等がある場合には、個人日誌の赤字の部分に書き加えるなど、本人の体調状態の変化に応じた対応を行い、プランの見直しにも活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人全体の施設には、多種多様のケアサービス体制が出来ており、それらを活用し、その時々生まれるニーズに対応して、生きがいや喜びを感じられる様な柔軟な支援ができるように取り組んできている。		

グループホーム おとぎの国

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	支援できている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望される医療機関で適切な医療を受けられるように関係を築いており、情報も提供している。	本人や家族の希望する医療機関での医療を受けられるようにしている。病院受診は基本的に家族支援であり、要望があれば通院支援を行っている。その際の情報の共有は徹底している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の個々の体調や状態の変化に応じて、適切な受診や看護支援が受けられるよう協働している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	状態変化や状況に応じて、早期の対応が出来るよう医療機関との関係づくりを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	グループホームへの入居時より相談し、重度化された場合のことも話し合ってきている。「終末期も、できればここでお願いしたい……。」と希望される家族もある。	入居時に重度化に関してはホームの姿勢、方針を説明している。医療が必要になった場合は、かかりつけ医を交えて十分に話し合い、最善策と考えられる方向で対処している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当は職員全員が行えるよう勉強会を行ってきている。又、隣接の法人施設にはAEDを設置している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年、避難訓練を実施しているし、今年は、施設全体での防災(消火避難)訓練時に、地域や地元消防団との合同訓練を計画している。(6月で予定していたが、前日からの大雨と長雨の為、秋頃に延期する。)	法人全体で開催される避難訓練に参加している。地域関連の方の参加の訓練を計画している。	計画されている避難訓練の実施やホーム独自の昼間想定での訓練の実施も期待されます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の尊厳とプライバシーの保護は施設の方針でもあり、一人ひとりの性格等に配慮した言葉かけや寄り添うケアを心掛けている。	入居者を人生の先輩として尊敬し、一人ひとりに合わせた言葉使いや対応に配慮した支援をしている。同じ目線の高さで会話をし、寄り添うケアを目指している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	誕生日や特別な日には本人の希望メニューを準備し、日々の暮らしやショッピング、外出時等にも、本人の思い(判断)で決めてもらっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴や朝食は希望される時間帯であり、起床と就寝にも時間の幅を持たせており、行事のない昼間は、各々が思い思いのペースで過ごされる日が多い。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容室へは本人の希望する所に行かされている。又、特別な日や外出時の化粧や服装も相談しながら行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事のメニューやおやつ等、相談しながら決めていくし、準備や片付けなどを一緒に行い、食事と一緒にとっている。又、誕生日や特別な日には、本人好みの料理が必ず入っている。	食事の献立やおやつは入居者と相談し、好みや季節感を取り入れたものであり、栄養士からのアドバイスもある。菜園や頂き物の野菜が食卓を彩り、職員も同じ食事を介助の必要な方の傍らで摂り、会話も多く、食事の時間を大切にしている。出来る入居者と一緒の下拵えや味付け、配膳、片付けなど行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士のアドバイスを受け、栄養バランスや水分量に注意しながら行っている。又、季節感のある食材を取り入れ、食事を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時の洗顔とうがい、食後の歯磨きとうがい、就寝前の入れ歯洗浄を行っている。時には、ソフト水を使用し、口腔内の清潔保持に努めている。		

グループホーム おとぎの国

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンに合わせ、早めの声かけと誘導、介助を行っている。ほぼ全員の方が、昼夜共に、トイレでの排泄を維持されている。	入居者の排泄パターンを把握しており、時間やしぐさを察知して、耳元で声かけをし、トイレ誘導を行い、自立に向けた支援を行っている。夜間もホータブルの使用はなく、トイレでの排泄支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の多い食材を使った料理と十分な水分補給・日中の運動等で、便秘予防・自然排便に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望によりいつでも気持ちよく入浴出来るように支援している。入浴中及びその前後には、見守り・安全確認に注意を払っている。	入居者の希望に応じた時間で気持ちよく入浴できるように支援している。拒否の方には、無理強いせず、声かけをする職員を変えたり、暫くして声をかけたりと工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自立支援と各々の生活習慣が基本であるが、昼間の運動や入浴・活動的に過ごすこと等で夜間安眠出来るよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬状況を書面で記録しており、効能や副作用等についても話し合い理解に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者それぞれの得意分野があり、それを活用し、日々の生活の中で張りのある毎日を送られるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	四季折々の外出や祭り等の見学、古里訪問、散歩、茶話会などを行ってきており、ホームの周辺にはバラ園や菜園など散歩や外気浴に適した場所が多い。又、古里訪問や知人宅訪問などは家族の協力を得ている。	季節ごとに花見やドライブ、買い物など外出の機会が多い。家族の協力を得て全入居者で出かけることも多い。ホーム近隣の法人のばら園や広い敷地の散歩などに出かけている。天候が良い時は、ホームの庭でお茶や日向ぼっこや外気浴を楽しむ機会も多い。	



グループホーム おとぎの国

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ショッピングや外食時等には、各々での支払いをお願いしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	贈り物等へのお礼の他、本人の要望があれば、電話をかけ家族等と話をされる。又、年賀状を毎年出している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物が吹き抜けで、二カ所のリビング(居間と食堂)がガラス越しに眺められる。光の庭や玄関の周りは、各々が一つの庭園であり、自然の光や季節の草花を楽しみながら過ごせるようになっている。	明るい建物の構造上、リビングから中庭の植物の植え込みが見ることが出来、開放的である。ホーム内も落ち着いたヨーロッパ調の装飾がなされており、自然を室内でも感じる事が出来る。光量、換気、臭気などに配慮され清潔なホームである。至る所に椅子やソファは設置されており、どこでもくつろげ、穏やかな生活が確保されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	天気や気候に応じて、玄関横のベンチなどで外気浴をしたり、居間のソファや食堂で、気の合った人々と思い思いに過ごしたりもされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ほとんどの部屋が本人と家族の設定であり、面会時等にはお茶を飲んだり、アルバムを見たりして過ごされることが多い。	居室のドアには入居者別の花やスタンドグラスがはめ込まれ、使い慣れた家具や生活用品、電化製品が持ち込まれている。仏壇が持ち込まれている居室もあり、特徴のある個性的な居室造りの支援がしてある。家族もくつろぐことができ居室で過ごされることが多い。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーの構造で、見通しもよく、各々の行動や居場所も確認しやすい。歩行器を見つけ運動される方や空いている居間のソファで談話したり休憩をとったりされる方も居られる。		

### 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35(13)	毎年、グループホーム単独での避難訓練と関連施設と協働での避難訓練を実施している。又、今年、法人全体での防災訓練(消火避難訓練)時に、地域や地元消防団との合同訓練を計画している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>法人全体での防災訓練(消火避難訓練)時に、地域の皆さんや地元消防団との合同訓練を実施する。</li> <li>グループホーム単独での避難訓練や協働での訓練実施時など、近隣住民の皆さんへの事前連絡と協力依頼を継続し伝えていく。</li> <li>ホーム独自の昼間想定での訓練を計画する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>法人全体での防災訓練(消火避難訓練)時に、地域の皆さんや地元消防団との合同訓練を実施する。</li> <li>グループホーム単独での避難訓練や協働での訓練実施時など、近隣住民の皆さんへの事前連絡と協力依頼を継続し伝えていく。</li> <li>ホーム独自の昼間想定での訓練を実施する。</li> </ul>	23年度内
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。